

# 調剤申し合わせ

国立療養所宮崎東病院薬剤科

## 1、薬袋書記について

(1) 処方箋に用法が記載してあるものはその用法に従う。記載してある用法が、添付文書に記載(例 ベイスン錠 食直前)してある用法と異なる場合は疑義照会する。

(2) 用法記載のない場合は、原則食後とする。ただし添付文書に記載してある用法と異なる場合は疑義照会する。以後は前用法に従う。

## 2、錠剤及びカプセル剤の調剤について

(1) 原則として院内で登録された薬剤(剤形、含量)を使用する。

(2) 以下のような処方の場合は半錠のみ分包し、その薬品名を印字し薬袋は別とする。

例) ワーファリン錠(1mg) 3.5T 1X 3錠はヒートシールで、半錠を分包し、ワーファリンと印字する。ワーファリンのみの薬袋をつくる。

(3) 割線のない錠剤を分割する際、清潔な半錠君等で半錠にして分包する。ただし、遮光保存の錠剤を、半錠又は粉末化の指示があった場合には処方医に照会する。

例) ザンタック(150) セレスタミン、チウラジール(50) デパス(0.5) トリプタノール(10) バイミカード(10) バイロテンシン(5) 等

(4) ジゴシン錠の半錠を分包する際、ジゴシンと印字する。糖尿病薬の半錠を分包する際、その薬品名を印字する。

(5) 錠剤の粉末化、脱カプセルの指示がある場合、1包量が0.3g未満の時には、賦形剤(乳糖)を加えて1包量0.3gとして分包する。ただし、カプセルの中身が顆粒状のものは賦形しない。

(6) 錠剤及びカプセル剤の1包化については、医師の指示があった場合、1回分ずつ1包化する。

(7) 2分割以外の分割と糖衣錠の2分割については、つぶして調剤する。

## 3、散剤の調剤について

(1) 散剤は、原則として1回服用量を1包とする。

(2) 散剤の賦形は、1回量が0.3g未満のとき、賦形剤を加えて0.3gとする。ただし、顆粒剤、抗生剤(ドライシロップ) カマゲ、ネオイスコチンは賦形しない。また、賦形剤は原則として乳糖で行うが、イスコチンの賦形にはデンプンを用いる。

(3) ドライシロップは水剤とせず、散剤のまま調剤する。

(4) 同一薬袋で2種類以上の散剤が識別困難な場合(同色、同性状)マジックで色分けまたは印字して、患者が識別できるようにする。

(5) 小児科の抗生剤は、原則として単品で分包するが、1処方中2種類以上ある場

合は混和して分包する。

( 6 ) 散剤の調剤は処方番号を優先して調剤する。( 処方番号が異なる場合、同一投薬回数でも混和せず別分包とする )

( 7 ) メーカーのヒートシール製品がある場合はそれを使う。

当院のメーカーヒートシール製品

アローゼン ( 0 . 5 g ) S M 散 ( 1 . 3 g ) 漢方薬、シナール ( 1 g ) ソロン細粒 ( 1 g ) ノイエル S ( 0 . 5 g ) P L 顆粒 ( 1 g ) 幼児用 P L 顆粒 ( 1 g ) マーズレン S ( 0 . 6 7 g ) マーロックス懸濁内服用 ( 1 . 2 g ) ミルラクト ( 0 . 5 g )

#### 4、内用液剤の調剤について

( 1 ) 小児用シロップの調剤は、原則として目盛り調剤とする。その際加える水は ( 原則として精製水 ) 最少量で直近上位とし、マジックで 1 回量毎の印をつける。尚、1 週間分を投薬瓶 1 本で調剤する。

( 2 ) 8 日以上投薬日数で水薬瓶が 2 本以上になる場合、1 本のみ水を加えて目盛り合わせを行い、他のものには目盛りのみ印をつけ、患者に服用する際、水を加えるように説明する。尚、水を加えた水薬瓶を No. 1、水を加えていない水薬瓶を No. 2 とマジックで記載し、No. 1 から服用するように説明する。

( 3 ) アルロイド G は原液のままで調剤する。その際、計量カップの 1 回量にマジックで印をつけて患者に説明する。

#### 5、院内製剤について

( 1 ) 当院で院内製剤しているものは、内服用 5 品目、外用 2 品目計 7 品目である。

内服 1 硫酸アトロピン 1 % 散

硫酸アトロピン原末 1 g + 乳糖 9 9 g = 1 0 0 g

内服 2 ファンギゾンシロップ ( 10 % ) 1 m L 2 4 日分

( 原液 2 4 m L を 1 本患者さんに渡す )

内服 3 ファンギゾンシロップ ( 10 % ) 2 m L 2 4 日分

( 原液 2 4 m L を 2 本患者さんに渡す )

内服 4 ファンギゾンシロップ ( 10 % ) 1 m L 5 日分

( 1 0 0 倍希釈して 5 0 0 m L 1 本患者さんに渡す )

内服 5 ファンギゾンシロップ ( 10 % ) 2 m L 5 日分

( 1 0 0 倍希釈して 5 0 0 m L 2 本患者さんに渡す )

外用 1 0 . 5 % イソジン・グリセリン液

ポピヨドン液 ( 10 % ) 5 m L + グリセリン 9 5 m L  
= 1 0 0 m L

( 外用の滅菌投薬瓶を使用 )

外用 2      1 % イソジン・グリセリン液  
ポピヨドン液 ( 10 % )    1 0 m L    +    グリセリン    9 0 m L  
                 = 1 0 0 m L  
( 外用の滅菌投薬瓶を使用 )

附則      平成 1 4 年 6 月 1 0 日から実施する。

附則      平成 1 4 年 7 月 2 3 日一部改正する。

附則      平成 1 5 年 7 月 1 5 日一部改正する。